

毎回の

しんぶんタイムが楽しい!

何でも話せるのがいいね

石川・金沢支部さえずり班

「月一回のしんぶん

タイムがいつもの間に

定例化になりました。

記事をみんなで読み合

わせすることで内容を

共有でき、深まり話し

合うことの大切さ、楽

しさを味わっています。

盛り上がり、みんな

笑顔になります。」

班の会員が新婦人しん

ぶんにこんな投稿をす

るほど、しんぶんタイ

ムは好評です。

2月の班会でもしん



生活のことから政治のことまで
おしゃべり(ちぎり絵小組)

リユックに入れておきたいグッズ」を読んでもおしゃべり。「私は携帯トイレを入れてるよ」「私は防災の笛も持ち歩いてるよ」など各自が入れているものを出し合うなど、楽しい班会になりました。

小组でタイムをやってみた

熊本・天草支部

班会では、会費を集めた後、毎回しんぶんタイム。気になった記事などを読み、それぞれの意見が飛び交いま

す。話がそれていくこともありますが、それもまた楽しい。班会としんぶんタイムを続けることで、気兼ねなく

話せる場になっていきました。政治や社会のことから生活のこと、何でも話せるのが、新婦人の良いところですね。

した。歌声小组は月2回。1回目の終了時に「次回はタイムあるよ」、2回目は最初に「今日はタイムするよ」など声をかけあい、12人のメンバーのうち残れる5〜6人が参加し、全員が話せるように気をつけています。

2月22日の小组では、食事情「果物が高くなってきている背景は？」を読みました。野菜や米の高騰、農家や酪農家の高齢化、採算が合わずやめる方が多く、「食料危機が来るのでは」「これも政治のおかげさからくるんだね」「みんなでなんとかしないとね」とおしゃべりしました。暖かくなってきて、また新しい人を誘おう」とゲストに声をかける予定です。短時間でもタイムを続けることに意義があると、半年以上継続。今後は、班や他の小组でも相談しています。

「歌って解散」ではなく、情勢や自分の思いを話し、共感したり、考えを深め合ったりできます。昨年6月に入会した2人も「地域でいいことばかりです。は、政治や暮らしの話

つくり班とたんぼぼ班の合同の歌声小组は、昨年6月からしんぶんタイムにとりくみ、小组終了後、30分ほどしんぶんを読んでもおしゃべりをします。「歌って解散」ではなく、情勢や自分の思いを話し、共感したり、考えを深め合ったりできます。昨年6月に入会した2人も「地域でいいことばかりです。は、政治や暮らしの話

主張

寒さのなかにも春の兆しを感じられ、新入学の季節が近づいてきました。諸物価の高騰が学齢期の子どもがいる世帯も直撃しています。小中学生がお金の心配なく学校に通えるように、給食費や修学旅行費、学用品代などが無料になる就学援助制度があります。入学に必要な新入学学用品費も「入学準備金」として前倒し支給されます。

就学援助の支給額(2025年)

は、物価高騰を受けて卒業アルバム代や給食費、オンライン学習費がこれまでよりも引き上げられました。しかし、教育費が生活を圧

「おめでとうチラシ」を活用し、「新婦人で一緒に」

・2倍に引き上げさせるといって成果も生まれています。

また、学校給食無償化や教室へのエアコン設置、学校トイレ個室に生理用品の常備を求めるなど、各地の新婦人が学齢期対象の運動

迫る学齢期世帯の実情を反映した金額になるよう、さらなる運動が必要です。千葉・流山支部では、地域の運動団体とともに市に対して要請を重ね、就学援助基準額を生活保護基準額の1.1倍から1

にとりくんでいます。北海道・札幌厚別支部では、入学おめでとうチラシに新婦人がとりくんだ学校給食無償化の運動を載せ、「一緒に」と訴えるなど、チラシの活用も工夫しています。

保育所や幼稚園の卒園式、小中学校の入学式にあわせて宣伝行動などで活用し、学齢期の保護者の新生

活にむけた期待と不安に寄り添いながら活動も知らせ、「新婦人で一緒に」と呼びかけましょう。

※中央本部作成の2025年度版「入学おめでとうチラシ」はホームページに掲載。



会場にタイムの進行表を掲示

転勤・転居される会員・読者のみなさんへ
新婦人は全国に班があり、転居先にも仲間がいます。移動のときは班、または支部に連絡し、転籍・転紙の手続きをお願いします。

最終回

学校給食ができるまで

公立小学校栄養教諭 松本恭子



学校給食費の無償化が、いよいよ国会で議論され始めました。長年現場の栄養教諭を含む教育者たちが「教育の無償」の一つとして求めてきたことです。

学校における「食育」について考えてみると、文科省の学習指導要領においても、「食育は単なる栄養指導ではなく、

学び(知育)、道徳心(徳育)、健康(体育)の基盤をつくる重要な教育」と位置づけられています。さらに、現在の配置基準では3校に1人もいない栄養教諭

・学校栄養職員が1校に1名いて、子どもの教科学習と給食献立のきめ細かな連携ができれば、今よりもっと豊かな教科や食育の学びにすることができるといえます。

学校給食を別の視点で見ると、食料の地産地消による大きな可能性が広がっています。

すすむ「無償化」と学校給食のこれから

つまり、学校給食は食育を実践する重要な場であり、学習の幅を広げ、地産地消や文化継承などの役割があるからこそ「教育としての学校給食」が保たれると言えます。このたび巻き起こっている給食費の無償化は、経済支援のみではなく、教育の無償の原則の下に「教育としての学校給食」の質をより高める制度になることを願っています。学校給食はこれからも「学びの場」として、また日本の未来を創造する重要な役割を担っているのです。



毎日の給食が持つ大きな意味